

「美郷ブランド品目は、補助率が高いところに取り組みメリットがあると思います。しかし、ブランド品目を育てているということだけで、技術もなく、出荷に結びつかない状態では補助金を受けることはできません。農業は自然には逆らえません。私もこれまで何度か失敗がありました。連作障害で枯れてしまったことがあったり、台風でビニールハウスが壊されたこともありました。自分の思ったとおりに出来ないのが農業と言っても良いかもしれません。栽培農家のみなさんは日々努力を重ねておられると思います。」

私がトマトの栽培を始めたのは32年前。そのころの農業の主流は稲作で、野菜に対しては現在の補助制度もなく、確立された栽培技術もなく、全てが手探りの状態でした。長野県の八ヶ岳中央農業実践大学校での勉強を終えて秋田に戻り、何か高収入を得られる品目がないかと考えて、トマトを選びました。ナス、きゅうり、トマトは「野菜の王様」と呼ばれていますが、そう言われるだけあって栽培が難しい品目です。当時は流通経路もなく、栽培



■梅川靖さん (写真右)

## ブランド品目で高付加価値化を進めます

美郷ブランド品目の一つである  
トマトの生産に積極的に取り組んでいる  
梅川 靖さん(下中野町)に  
お話を伺いました。

現在では販売経路・流通経路が確立され、様々な助成制度も出て、米以外の品目を栽培するための初期投資の費用が抑えられるようになりました。以前に比べれば、スタウト位置に着きやすい状況になってきていると思います。また、比較的小さな面積でも、ある程度の収穫量が得られ、収入に結びつくことも魅力の一つかもしれません。

ブランド品目という考え方は戦略的に行えば大きなメリットがあります。青森県のリンゴや山形県のサクランボのように、その土地の顔になる可能性を秘めています。しかし、近年は全国的に年間平均気温が上がり、これまで作付けが出来なかった土地でも様々な品目が育てられ、一大産地が大きく変わりつつあります。農業を取り巻く環境が刻々と変化していることを肌で感じます。常に高くアンテナを掲げ、時流に敏感で在りたいと思っています。」

「最近はおカッとなりやすい子どもが多いと言われています。何が原因なのかと自分なりに考えていたときに、『自然と触れ合うことによって命の大切さを覚えたり、物を大切に持つ気持ちや優しさに気付く場合がある』という文章を目にする機会がありました。私も農業に携わっている一員として何かできないかと思ひ、都市と農村の交流事業に参加しています。」

交流事業では都会の子どもたちを受け入れる機会がたくさんあります。受け入れた子どもたちには、必ず食べ物のお話を教えます。「こうして作り、何カ月もかけて育てたものを食べているんだよ」ということを伝えていきます。そして、我が家を訪れた人が植えた野菜や米は収穫して



■吉方和衛さん

送るようになっています。野菜や米がどうやって作られ、我々の口に入るのかを理解してもらえると嬉しいですね。秋田県でも、農家の子どもたちが田植えを手伝わなくなりまして。都会の子どもたちにとっては、農業の全てがなおさら新鮮に思えるようです。日常生活では土に触れる機会が少ないので、素足で水田に入り、手で田植えをさせると喜びます。また、その場で収穫した物を食べることにとても感動します。イチゴやきゅうり、トマトなどを喜んで食べます。イチゴをパックに収穫して半分はすぐ食べ、もう半分は翌朝に食べて味を比べてもらいます。採れたてのもの新鮮さが違うということを知ってもらいたいと考えています。子どもたちとの交流を通じて、多くの方が食の安全・安心に気を遣っているということを感じました。アレルギーを持っている人がとても多いことに驚きもあります。生産者としては残留農薬などを気に掛けなければならぬと思います。交流後に親御さんから「好き嫌いがなくなった」「片付けを手伝うようになった」という連絡をいただくことがあります。私は、こういった交流が将来の観光リーダーを増や

## 都市部との交流を深め、地域に活気をもたらします

友好都市との交流や農業体験・民泊を通じた  
人的交流を積極的に推進している  
美郷町都市農村交流推進協議会の  
吉方和衛さん(八卦・熊堂)にお話を伺いました。

す足がかりになると考えています。今すぐに効果は出ないかもしれませんが、3年後、5年後には目に見えぬ形になって返ってくるかもしれません。交流から何年か経ち、ふと思いで『あの時食べたものが美味しかった。また食べたい』と連絡をもらったことがあります。都会に戻った子どもたちは「秋田県産」に敏感になるようです。「買い物に行ったら秋田県美郷町の野菜が売られていたよ」と言ってもらったこともあり、とても嬉しく思ったことがありました。」

### 政策 美郷ブランド品目 応援事業

美郷ブランド品目の出荷・販売にかかる経費の一部を助成することで生産意欲の向上を図り、作付の拡大と複合経営への応援をします。

#### ? 美郷ブランド品目とは

美郷町の「産地力強化」のために野菜や花きなどの品目を取り入れた複合経営を目指し、次の10品目をブランド品目に指定しています。

品目
1 トマト
2 きゅうり
3 スイカ
4 えだまめ
5 アスパラガス
6 ほうれんそう
7 キャベツ
8 ねぎ
9 花き
10 しいたけ

#### 販売拡大応援事業

##### 助成対象者

美郷ブランド品目並びに戦略作物を主原料とした農産加工品をJAや直売所、市場などに出荷・販売した町内の農業者等

※米の生産数量目標達成者

##### 助成額

4月～10月まで出荷・販売した美郷ブランド品目	販売額の2%以内
11月～翌年3月まで出荷・販売した美郷ブランド品目	販売額の5%以内
4月～翌年3月まで出荷・販売した農産加工品	

##### 助成を受けるには

出荷証明が必要なため交付申請については、JAや直売所等から原則としますが、町内外の市場等へ出荷された場合は、農政課へご連絡ください。

#### 生産拡大応援事業

##### 助成対象者

アスパラガス・花き・施設栽培作物(ブランド品目)の栽培を新規または作付拡大した農業者

##### 助成額

施設栽培	100坪当たり	10万円
露地栽培	10アール当たり	10万円

##### 助成を受けるには

助成対象者の作付拡大を確認した時点で、町が助成手続きを行います。

#### 交流促進プロジェクト

#### 地域資源の情報発信と売り込みの推進

美郷町総合計画「後期基本計画」では、将来の美郷町のために特に力を入れる施策を、まちづくり戦略プロジェクトと位置づけています。その一つである「交流促進プロジェクト」では、美郷町の豊穡な大地の恵みと風光明媚な自然などの誇れる資源を全国に発信することで、さらに人々が集い、ふれあい、活気あふれるまちをつくることを目指しています。

平成23年度は、東京都大田区の消費者を対象に、美郷町都市農村交流推進協議会と連携して農業体験ツアーを実施します。

#### ! あなたもホストファミリーになってみませんか?

農業体験や民泊の受け入れにご協力いただける方は、美郷町都市農村交流推進協議会までご連絡ください。

【問】同事務局(美郷町農政課内)

☎0187(84)4908